

熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター

年 報

第5号

2014

熊本大学文学部附属永青文庫研究センター

序 文

平成21年4月に設置された文学部附属永青文庫研究センターの第一期5年の活動が、平成25年度末をもって終了します。

第1期の研究活動の結果、熊本大学附属図書館に寄託された永青文庫の目録作りがほぼ完成し、来年度中には公表できる目途がたちました。また、重要資料を画像データとして蓄積する作業も順調に進んでおります。さらに、『永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編』を吉川弘文館より刊行することができました。これで、第1巻『細川家文書中世編』（平成22年5月）、第2巻『絵図・地図・指図編Ⅰ』（平成23年3月）、第3巻『細川家文書近世初期編』（平成24年3月）、第4巻『絵図・地図・指図編Ⅱ』（平成25年3月）とあわせて、全5冊が完結しました。

特筆すべきことは、このうち、第1巻に収録した中世文書を中心とする266通が、平成25年6月に国の重要文化財に指定されたことです。これも、スタッフの地道な努力のためものと考えております。文部科学省とのミッション再定義に関する意見交換会でも、永青文庫研究センターの研究活動が、他大学には見られない文学部の「強み」として、非常に高く評価されました。大変喜ばしく思っております。

昨年11月30日から二日間にわたって、永青文庫研究センターが主催して「日本近世の領国地域社会」と題するシンポジウムを開催しました。全国から気鋭の研究者が集まり、とても充実した報告と討論が行われました。その成果は、来年度中に刊行される予定ですので、どうぞご期待下さい。

この3月一杯で、第1期の活動を支えてこられました甲元センター長はじめ、北野先生、高濱先生、川口先生が退任されます。センターの立ち上げから、活動が軌道にのり展開していくまでの先生方のご尽力に、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、永青文庫研究センター発足以来、研究員として基礎目録の作成にあたってこられた長井勲さんが、平成25年9月に亡くなられました。長井さんがおられなければ、目録の完成はおぼつかなかったと思います。長井さんの果たされた功績に心より感謝申し上げますと同時に、謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

平成26年3月吉日

熊本大学文学部長
小 松 裕

目 次

序文	1
1. センターの年間活動	4
2. 年間活動報告	9
古文書・古記録研究部門	9
絵図・地図研究部門	12
有職・故実研究部門	13
文学・文芸研究部門	15
3. 講演会の記録	18
物語史と絵（要旨）	18
4. 研究ノート	
細川家文書に見る江戸初期の人身売買	21
「沢村文書」の概要と史料的价值	35
5. 研究員の年間活動	49

1. センターの年間活動

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
平成25年4月1日	スタッフミーティング	センタースタッフ
4月4日	打合せ	小堀・甲元
4月15日	スタッフミーティング	センタースタッフ
4月16日	東京国立博物館にて「新指定 国宝・重要文化財」開催 「細川家文書」も展示された	甲元
4月22日 ～25日	日本テレビ取材・撮影	木藤（日本テレビ）・ センタースタッフ
5月8日	永青文庫常設展示振興基金活用委員会	稲葉・甲元
5月10日	打合せ	松本寿三郎（元熊大教授）・甲元
5月13日	スタッフミーティング	センタースタッフ
5月15日	熊本日日新聞連載の打合せ	浪床（熊日）・稲葉
5月20日	舞鶴市文化振興課と打合せ	嵯峨根（舞鶴市）・稲葉
5月21日	熊本ルネッサンス県民運動本部 まちづくり交流会出席	熊本ルネッサンス県民運動本部・京都舞鶴市・稲葉
5月22日 ～23日	文化庁より、国の重要文化財に指定された文書の返却、書庫視察	稲葉
5月29日	永青文庫研究センター運営委員会	甲元・稲葉
5月30日	熊本日日新聞取材	浪床（熊日）・稲葉
5月31日	県立美術館で打合せ	山田（県美）・稲葉
6月3日	スタッフミーティング	センタースタッフ
6月7日	講演打合せ 熊本日日新聞に「ポスト戦国時代 細川忠利の国づくり」連載開始	稲葉 稲葉
6月13日	熊本市文化振興課と打合せ	稲葉
6月17日	スタッフミーティング	センタースタッフ
7月1日	スタッフミーティング	センタースタッフ
6月14日 ～15日	文化庁にて打合せ	甲元
7月3日	パレアにて講演 講演 主催：肥後銀行	稲葉

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
7月5日	打合せ	植木町・甲元
7月6日	熊本日日新聞社「くまにち・あれんじ」7月6日号に熊遊学ツーリズム「いざ、知の冒険へ！「永青文庫」に埋もれる宝探し」掲載	稲葉
7月15日 ～17日	文化庁にて打合せ	甲元
7月22日	スタッフミーティング	センタースタッフ
7月24日 ～25日	静岡大学 今村直樹氏と研究打合せ	稲葉
7月31日	熊本県立美術館にて打合せ	山田（県美）・稲葉
8月5日	スタッフミーティング	センタースタッフ
8月6日	資料撮影（文学・文芸研究部門）	徳岡・山田・藤本
8月19日	スタッフミーティング	センタースタッフ
8月29日	資料撮影（有職古実研究部門）	高濱・藤本
9月1日 ～3日	領国地域社会論シンポジウム準備会 11月頃に開催する、領国地域社会論シンポジウム（仮称）に係る研究打合せ	今村（静岡大学）・ 小関（千葉大学）・ 白石（宮内庁書陵部）・ 高槻（神戸大学）・ 藪田（関西大学）・ 稲葉・三澤・吉村
9月2日	スタッフミーティング	センタースタッフ
9月6日	WEB マガジン 「KUMADAI NOW」取材	稲葉
9月11日	WEB マガジン 「KUMADAI NOW」取材	稲葉
9月14日	大阪府にて舞鶴・丹後学講座講演 主催：舞鶴市	稲葉
9月24日	熊本大学百周年記念館にて講演 交通センターホテルにて講演 主催：熊本ルネッサンス県民運動本部	稲葉
9月30日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月1日	熊本大学附属図書館リニューアルオープン オープン記念として、文学関係の貴重資料を展示。	徳岡・森
10月8日	八代市立博物館にて、 「16世紀の社会変動と豊臣政権」講演 講師：稲葉 継陽	稲葉
10月9日	領国地域社会論シンポジウムについて取材	浪床（熊日） 稲葉

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
10月10日	講演打合せ	稲葉
10月13日 ～14日	日本テレビ取材	稲葉・後藤
10月21日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月23日	文書調査	山田(県美)・稲葉
10月27日	講演(主催:八代市未来の森ミュージアム)	稲葉
10月28日	日本テレビ取材	稲葉
11月2日	永青文庫セミナー「物語史と絵」開催	放送大学3F 聴講者:80名
11月2日 ～4日	貴重資料展「永青文庫資料にたどる物語史と絵」開催	附属図書館 参加者:230名 森・徳岡
11月3日	ホームカミングデーキャンパスツアー 「絵と物語-永青文庫資料を中心に-」開催	森・徳岡
11月6日 ～8日	歴史冊子集中調査	一般参加者:5名 学生:6名 稲葉・後藤
11月8日	日本テレビ取材・打合せ	稲葉
11月11日	スタッフミーティング	センタースタッフ
11月16日	京都府立丹後郷土資料館にて講演	稲葉
11月25日 ～29日	スタッフミーティング 文学班集中調査	センタースタッフ 森・徳岡・山田
11月30日 ～12月1日	シンポジウム「日本近世の領国地域社会-熊本藩政改革を焦点に-」開催 11月30日(土)13:00~17:00 司会:後藤 典子 問題提起「熊本藩政改革と地域社会」(稲葉 継陽) 【第I部 藩政改革の実像】 「熊本藩宝暦改革の歴史的位相-近代文書行政への転回点としての宝暦改革」 吉村 豊雄 「近世期市場経済の中の熊本藩-宝暦改革期を中心に-」 高槻 泰郎(神戸大学) 「細川重賢明君録からみえる熊本藩政改革」 小関 悠一郎(千葉大学)	文法棟A1教室 参加者:140名 今村(静岡大学)・ 小関(千葉大学)・ 籠橋(東北歴史博物館)・ 白石(宮内庁書陵部)・ 高槻(神戸大学)・ 藪田(関西大学)・ 稲葉・後藤・松崎・ 三澤・吉村

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
	12月1日(日)9:30~16:30 【第II部 藩政改革の歴史的位相】 司会:後藤 典子 「17世紀における藩政の成立と特質-藩政改革の歴史的位相-」 稲葉 継陽 「近世後期における手永会所と地域社会」 今村 直樹(静岡大学) 「幕末政治の展開と肥後藩」 白石 烈(宮内庁書陵部) 「地域社会論と「領国地域社会」」 藪田 貫(関西大学) 【第III部 パネルディスカッション】 14:30~16:30 司会:三澤 純 パネリスト:今村・稲葉・小関・白石・高槻・藪田・吉村 コメンテーター:籠橋 俊光(東北歴史博物館)、松崎 範子	
12月2日	日本テレビ撮影に関する打合せ	日本テレビスタッフ・ 稲葉
12月3日	日本テレビ撮影に関する打合せ	日本テレビスタッフ・ 稲葉
12月4日	肥後銀行と打合せ	稲葉
12月5日	出版に関する打合せ	吉丸(永青文庫)・甲元
12月9日	スタッフミーティング	センタースタッフ
12月11日	日本テレビ撮影	日本テレビスタッフ・ センタースタッフ
12月12日	講演:「城下町と文化財の活用」 主催:熊本青年会議所、会場:熊本市民会館	甲元
1月6日	スタッフミーティング	センタースタッフ
1月9日 ～13日	日本テレビ撮影	日本テレビスタッフ・ 稲葉・後藤・藤本
1月20日	スタッフミーティング	センタースタッフ
1月26日 ～28日	研究打合せ	東京大学史料編纂所 稲葉
2月3日	スタッフミーティング	センタースタッフ
2月17日	スタッフミーティング	センタースタッフ
2月17日 ～18日	静岡大学今村氏来訪	今村(静岡大学)・ 稲葉

日付	打合せ・報告内容・講演会等	打合せ先等
2月19日 ～21日	織田信長発給文書調査	東大史料編纂所・県美・ 稲葉
2月24日	永青文庫研究センター運営委員会	甲元・稲葉
3月1日	『永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編』 刊行	
3月3日	スタッフミーティング	センタースタッフ
3月17日	スタッフミーティング	センタースタッフ
3月26日 ～27日	『永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編』 出版挨拶・研究打合せ	公益財団法人永青文庫・ 文化庁・東大史料編纂所 甲元・稲葉・高濱

2. 年間活動報告

古文書・古記録研究部門

川口恭子・稲葉継陽・吉村豊雄・長井勲・松崎範子・後藤典子

1. 総目録作成作業

永青文庫の膨大な古文書・古記録資料の総目録を作成する作業は、本センターの事業の中でも最も多くの時間と労力を必要とする。以下、平成21年度から25年度2月末までの作業成果を数量的に総括しておく。

(1) 藩主お手元史料の目録化の完了

貴重書庫の「杉部屋」に保管されている、各種の藩主お手元史料群については、調査カード（別紙様式）に記入した情報をエクセル・ファイルに入力・データ化する作業を完了した。その点数は10,522点である。

(2) 藩政史料群の目録化作業

膨大な藩政史料群について、古文書や古記録綴り一点ごとに調査データを記入する調書を作成し、その調書上のデータをエクセル・ファイルに入力する作業を継続的に推進した。

(3) 全体の進捗状況

上記の期間における調書作成・データ入力等の総計は、以下の通りである。

○作成調書数 41,813

○調書データ入力数 38,001

○未調査約200点

このように、センター発足以来5年間弱の調査期間において、当該分野の担当で42,000点ちかくの史料調書が作成され、うち38,000点の調書データが電子化された。調書作成も26年3月末にはほぼ完了する予定である。

平成26年度のごく早い時期に、すべての歴史資料の調書データの電子化が完了できることは確実であるが、あわせて、必要な範囲での再調査と、他分野との調整を進めていく必要がある。

2. 近世初期冊子史料画像データの集積

熊大寄託永青文庫資料の中には、他の大名家資料群にはあまり類例を見ない、近世初期の冊子史料が大量に存在している。

第一は、初期の藩政文書の案文集である。

未紹介の細川忠利文書案文集には、家老・奉行衆、江戸詰家臣、三斎付家臣（中津奉行）宛の達書控えを収録した『御国御書案文』、地方に対して発給した条目等の控えを収録した『御郡方文書』などがある。藩主の惣奉行等への仰出の要旨を記録した数十冊の冊子『奉書』も案文集に準じる史料である。さらに、惣奉行から諸奉行や給人そして中津奉行への書状の控えを収録した『御郡江之文案』等も含めて、忠利・惣奉行文書の発給時に右筆がリアル・タイムで作成した案文（発給文書控）集に収録されている文書は、相当の点数にのぼる。また、こうし

た冊子の内容や近世後期に現存していた文書原本等をもとに成立した『部分御旧記』などの編纂物にも、膨大な文書が収録されている。

第二に、奉行らの合議記録も大量に伝来している。

初期奉行所の合議記録である『日帳』『覚帳』『萬覚帳』、さらに地方行政や役人人事等に関する惣奉行及び財政担当奉行の合議の結論を記し参加者が捺印した『相談帳』などは、初期の大名家の意思決定の構造を示す貴重な史料群である。

これらを総合的に解析することは、センターの第2期における主要な研究課題となる。

そのため、第1期ではこれら史料の画像データの集積をすすめ、約600冊40,000カットの画像データを集積した。

3. 関連事業

(1) 「シンポジウム 日本近世の領国地域社会」の開催（2013年11月30日・12月1日）

日本の近世社会の特質は、熊本藩領のような領国地域を典型として把握することができる。熊本藩政改革には近世の政治思想と統治経験が集約され、市場経済との新たな関係をも踏まえながら、近代行政・近代地方政治の起点が形づくられたとみられる。熊本藩の領国支配は同時代にも高く評価され、永青文庫に多くの史料を伝えている。その研究の最前線からの報告をもとに、近世社会全体の特質把握を試みた。

会場は熊本大学文学部棟を用い、参加者は約130名、内容は以下のとおりであった。なお、本シンポジウムの内容は、平成26年度に書籍化する計画である。

問題提起「熊本藩政改革と地域社会」（稲葉 継陽）

第Ⅰ部 藩政改革の実像

熊本藩宝暦改革の歴史的位相 吉村 豊雄（熊本大学）

近世期市場経済の中の熊本藩 高槻 泰郎（神戸大学）

細川重賢明君録からみえる熊本藩政改革 小関 悠一郎（千葉大学）

第Ⅱ部 藩政改革の歴史的位相

17世紀における藩政の成立と特質 稲葉 継陽（熊本大学）

近世後期における手永会所と地域社会 今村 直樹（静岡大学）

幕末政治の展開と肥後藩 白石 烈（宮内庁書陵部）

地域社会論と「領国地域社会」 藪田 貫（関西大学）

第Ⅲ部 パネルディスカッション

司会進行 三澤 純（熊本大学）

(2) 日本テレビ開局60周年特別番組

「700年の名家・細川家秘伝 信長59通の手紙が語る新事実」（仮題）制作への協力

本番組は、本センターによる永青文庫伝来の織田信長発給文書の研究過程をドラマ化するなど、センターの活動と成果をひろく社会に周知する内容でもって企画され、本センター歴史資料部門も制作に積極的に協力した。諸事情により、放送日は未定である。

(別紙様式)

永青文庫古文書・古記録目録調査カード

調査年月日

調査者

No.

通番号									
目録番号									
年代	年	(西暦)	月	日					
書写年代									
史料名(外題)									
内容(内題)									
差出・作成	日下 日下次行								
宛所									
員数	通	冊	丁						
体裁	縦紙	折紙	切紙	続紙()	切継紙()	罫紙	縦帳	横帳	仮綴
法量	縦	cm	横	cm	包紙	縦	cm	横	cm
紙質(中世のみ)									
状態	汚損	虫損	破損	継目糊離れ	糸綴離れ				
備考(印章、付箋、押紙、包紙等)									
保管場所									

絵図・地図研究部門

北野隆・藤本豊治

1. 目録作成作業

平成21年（2009）4月から25年（2014）2月までに、絵図・地図研究部門が調査対象とした資料は、約1,300点である。以下に、現在までの進捗状況と今後の課題を示す。

(1) 進捗状況

- ①調査カード作成 : 1,210点
- ②電子データ化（入力） : 989点
- ③未調査資料 : 約70点（現在整理・仕分中の未登録資料）

今年度内に、未調査資料約70点の調査カードを作成し、この約70点を含めた残り約290点の電子データ化（入力）を完了する見込みである。

(2) 今後の課題

当部門が担当した絵図・地図は、資料に作成年や作成者、作成目的などが記されたものは少なく、また、関連する文書などから独立して単体で架蔵されたものも多い。今年末に各部門から出そろった詳細な書誌データと対照し、作成年・者・目的などを比定する作業が必要である。

また、今回当部門では、主に一枚ものの悉皆調査を担当し、冊子ものはごく一部を除いて調査しなかった。しかし、これら冊子ものの中にも藩内の櫓場を描いた絵図帳や寺社の平面や寸法などを記した改帳などもあり、絵図・地図研究部門による調査も必要であろう。

2. 関連事業

目録作成作業を通して得られた成果と永青文庫の資料群を、学会や社会、文化財行政などにひろく周知・還元する目的で、資料集の出版、資料展と講演会の開催、新聞や広報誌などの取材に協力した。

(1) 出版事業

- ・『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅰ』熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編、吉川弘文館、258p、2011年3月1日（執筆：北野隆）
- ・『永青文庫叢書 細川家文書 絵図・地図・指図編Ⅱ』熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編、吉川弘文館、292p、2013年3月1日（執筆：北野隆、藤本豊治）

(2) 資料展と講演会

- ・「第4回永青文庫セミナー『御花畑屋敷（肥後藩国許屋敷）について』」熊本大学附属図書館 熊本大学文学部附属永青文庫研究センター共催、放送大学熊本学習センター、2009年11月1日（講演：北野隆）
- ・「第28回熊本大学附属図書館貴重資料展」熊本大学附属図書館・熊本大学文学部附属永青文庫研究センター共催、熊本大学附属図書館（中央館）、2011年10月29～31日（企画展示・解説目録：北野隆、藤本豊治）
- ・「第28回熊本大学附属図書館貴重資料展公開講演会・第6回永青文庫セミナー『永青文

庫資料にみる肥後の景観の魅力』」熊本大学附属図書館・熊本大学文学部附属永青文庫研究センター共催、放送大学熊本学習センター、2011年10月29日（講演：北野）

3. 各種資料の写真撮影

以下に記すように、(1)は絵図・地図研究部門で、(2)と(3)は各研究部門と共同で資料の写真撮影や整理を行った。

- (1) 重要な絵図・地図資料の写真撮影
 - ・総点数404点（4×5ポジフィルム：100点1200万画素デジタル：304点）
- (2) 熊本県指定有形文化財「尚書正義版木」及び参考資料の写真撮影と整理
 - ・「尚書正義版木」：版木390点、表題1点
 - ・熊本県立図書館蔵「影宋本 尚書正義」：全20冊
- (3) 近世から近代に作成された目録の調査、撮影（資料群全体の伝来過程や文書管理について把握・精査のため）
 - ・近世に作成された文書目録：17点
 - ・近世から近代に作成された蔵書目録：48点（58冊）

有職・故実研究部門

高濱州賀子

『永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編』（2014年3月1日発行）の編集・解説・資料作成等はセンタースタッフの協力のもと本部門高濱が担当した。

本書制作にあたり、熊本大学附属図書館寄託品のうち、平成21年度から24年度までセンターにて調査した、故実および芸能関係資料から選んで本叢書に掲載している。理由としては、附属図書館寄託資料は武家故実・芸能分野において未発表資料が殆どであること。ついで、特にこれまで一般公開されることの無かった資料のうち文化史の観点から貴重なものが多数存在していたためである。

本書は「故実・武芸編」とし、故実・武芸の2つのジャンルから選んでいる。故実については、関係資料が数量ともに膨大かつ幅広い年代に涉って集積されており、資料群としての価値が高い。また武芸関係は、江戸時代初期の資料が多く残り、近世武芸史上興味深い資料群とみていただろう。その他に茶の湯・能楽などの芸能資料もあったが、寄託品のみでは纏まりを欠き、永青文庫全体で捉える必要があるため今回は取り上げなかった。以下、本書の構成に従って概説する。

【1】細川藩故実の成立と展開

まず故実資料関係では、細川幽斎・一色藤長・武田吸松斎など室町幕府旧幕臣層が相伝していた、室町幕府関連の先例旧記・弓馬故実・書札札等の故実書群が、幽斎家臣竹原少左衛門に相伝される過程を検証している。更に、少左衛門を初代とする竹原家では三代目に本家分家に

分かれる。竹原両家が江戸時代末まで相伝していく系譜と、少左衛門の弟子筋への相伝系譜を解き明かした。「弓馬・故実の家筋」であった竹原家が果たした、藩主家族の儀式行事における故実御用の役目や、藩校時習館の教授科目となる故実学への変化などを資料に拠って見ていった。

全体では1,500点余の故実資料のうち、掲載した資料は87点である。これは各資料の、筆跡や奥書の署名・花押・印を基準に筆者や書写年代が判明するものから選んでいった。細川藩において、300年近くに亘って写し継がれてきた大量の故実書は、これまで年代判定が難しかった。しかし、本書で示した基準的資料から、今後の資料分類や年代比定はある程度可能になるだろう。

【2】細川忠利の武芸相伝

武芸資料においては、慶長・元和・寛永期の細川忠利への武芸相伝書の原本が纏まって残る。忠利は慶長5年に徳川家の人質として江戸に赴き、その後、将軍やその側近、幕臣等との緊密な関係を結んでいく。これらの交際を通して様々な武芸の修得も行われたため、江戸幕府を中心とする人脈が顕著に見てとれる。武芸免許状なども原本が残り、忠利が何時、誰から受けたかも明らかになる。例えば、馬術では高麗八条流の中山照守、剣術では疋田新陰流の疋田豊五郎、東軍直至流・酒巻次兵衛重勝、柳生新陰流・柳生宗矩、中条流・松山主水などに直接の教えを受け、また印可状などの免許を受けた。それら貴重な武芸資料を初公開している。特に柳生流については、禅僧沢庵が忠利に剣術の極意を説いた書状等を紹介し、家光・宗矩・沢庵・忠利の兵法を介した交流を語る直接史料となっている。

【3】細川忠利・光尚の軍学相伝

永青文庫寄託品では『甲陽軍鑑』や『士鑑用法』などの軍学書が多数残り、歴代の藩主若君が軍学稽古に励んでいたことがわかる。近世軍学の教科書ともいえる『甲陽軍鑑』は、幕臣小幡勘兵衛によって編纂された。細川忠利・光尚父子の寛永期に、勘兵衛から受けた『甲陽軍鑑』と印可状を紹介する。天草・島原一揆に当って、光尚は軍学の師である勘兵衛に書状で戦況を報告するなど、単なる稽古に止まらない実戦での関係もみえる。また、忠利・光尚父子に仕えた小田原夕庵の資料によれば、夕庵は光尚の軍学稽古を担当している。さらに江戸の軍学者達との交流など、当時の軍学事情を知る資料である。

【4】細川家武具甲冑故実

大名細川家が所持していた武器武具類の記録は時代時代で種々あるものの、総合的な記録は殆ど無い。そのなかで『御甲冑等之図』と題される、文政10年・11年(1827-28)に制作された甲冑図冊3帖は、大規模かつ総合的なものであるためここに紹介した。本図冊の成立の経緯をたどり、さらに現在永青文庫に残る歴代藩主等の甲冑との照合を行う。こうして現在までの180年余の間に失われた武具も明らかになった。また、細川忠利所持の甲冑を39点掲載していて、忠利の戦さに対する心構えや道具の好みなどがみえるのも貴重であろう。さらに光尚以下の歴代藩主では、時代とともに形式化され華美になっていく過程も見えてとれる。本図は文政期

の復古的な故実研究の成果の一つであり、今後の武具甲冑研究にとっても価値が高いものである。

文学・文芸研究部門

森正人・徳岡涼・山田尚子

文学・文芸研究部門は永青文庫蔵和漢書の目録作成を目的として、書籍の悉皆調査を実施するとともに、目録稿の作成を行ってきた。書籍の悉皆調査と目録化の事業については、平成21(2009)年の熊本大学文学部附属永青文庫研究センター(以下「本センター」という)発足以前の経緯もあり、本センターの文学・文芸部門の活動との関係も不可分であることから、遡及して記述することとする。

1. 調査遂行の経緯及び概要

永青文庫の書籍の調査については、国文学研究資料館が調査と写真撮影による収集を行った時期があったが、事業は一時中断していた。熊本大学の拠点形成研究B「世界的文化資源集積と文化資源科学の構築」(平成15～19年度)の日本語日本文学研究班が、平成16(2004)年度に調査を再開し、このプロジェクトを発展的に継承した「『永青文庫』資料等の世界的資源化に基づく日本型社会研究」(平成20～25年度)も引き継いだ。その間、平成18(2006)年10月に「人間文化研究機構国文学研究資料館と熊本大学文学部との研究連携に関する覚書」及び「人間文化研究機構国文学研究資料館と熊本大学文学部との研究連携に関する協定書」を取り交わして、両機関は蓄積した研究成果を交換し、目録編纂を共同の目標に掲げて本格的に活動を開始した。この時、文学部は国文学研究資料館より過去に作成された調査カードの提供を受けた。本センターが発足して自動的にこの事業を継承することになったのである。

本センターによる調査も、国文学研究資料館の調査カード(基本的に「細目調査カード」、必要に応じて「書目カード」)を用いる。調査は毎年度8月、12月、3月の3回、各回5日間を宛てての集中調査を基本とし、調査員として本センターの客員准教授、兼務教員、研究支援者のほか、熊本大学文学部、教育学部の教員、さらに他教育研究機関の教員が参加する。附属図書館の改修工事のため実施できなかった平成24(2012)年度を除き、平成25(2013)年度までに通算11回にわたる調査を実施し、すべての書籍約6,200点について調査カードの作成を終え、その大半について目録稿の電子入力を行った。

2. 各年度の調査活動

本センターが発足して以来実施した集中調査の概要と成果は以下の通りである(拠点形成研究Bによる調査からの通算回数を添える)。

平成21(2009)年度

第1(通第16)回集中調査 8月6日、7日、10日～12日
従事人数9人、調査点数192点

第2（通第17）回集中調査 11月30日～12月4日

従事人数7人、調査点数101点

第3（通第18）回集中調査 3月1日～5日

従事人数3人、調査点数101点

不定期再調査

従事人数2人、昭和50年代調査済み書籍の再調査、調査点数約100点

古文書・古記録班との不定期共同調査

従事人数1人、調査点数約1,000点（藩主手沢、歌稿、詩稿、短冊、色紙類）

平成22（2010）年度

第4（通第19）回集中調査 8月6日、9日～12日

従事人数9人、調査点数186点

第5（通第20）回集中調査 11月29日、12月1日～3日

従事人数7人、調査点数115点

第6（通第21）回集中調査 2月28日、3月1日～4日

従事人数9人、調査点数133点

平成23（2011）年度

第7（通第22）回集中調査 8月1日～5日

従事人数10人、調査点数151点

第8（通第23）回集中調査 11月28日～12月2日

従事人数8人、調査点数100点

第9回（通第24）回集中調査 2月27日～3月2日

従事人数10人、調査点数149点

不定期予備調査

従事人数1人、

地下2階未登録資料につき文学・文芸班が調査すべき対象の選別及び書名の記録

平成24（2012）年度

不定期随時調査

従事人数2人、地下2階未登録資料のうちから40点、未登録の目録48点、

不定期再調査

従事人数2人、

細川幽斎関係典籍77点、細川重賢関係典籍（主として漢籍）178点の再調査

平成25（2013）年度

第10（通第25）回集中調査 11月25日～29日

従事人数11人、調査点数146点

第11（通第26）回集中調査 3月3日～7日

従事人数11人、調査点数97点

3. 目録化の作業

国文学研究資料館より提供された調査カード、拠点形成研究Bによる平成16（2004）～20（2008）年度の調査による調査カード、本センター発足後の調査による調査カードについては、文学・文芸班の日常業務として目録稿の作成を進めてきた。書目を分類して電子入力をほぼ終えている。

4. その他の活動と成果

熊本大学附属図書館と本センターの共同主催による第27回貴重資料展「若き日の細川幽斎—永青文庫蔵・織田信長文書を中心に—」（2010年）、同じく第29回貴重資料展「永青文庫資料にたどる物語史と絵」（2013年）については、文学・文芸班が企画、解説目録の作成、講演等を行うなど参画し、熊本県立美術館の「没後400年・古今伝授の間修復記念 細川幽斎展」（2010年）にも調査、図録の執筆、講演などを通じて、文学・文芸班が協力した。

3. 講演会の記録

第29回熊本大学附属図書館貴重資料展公開講演会・第8回永青文庫セミナー

2013年11月2日

物語史と絵（要旨）

森 正人

1. 「永青文庫資料にたどる物語史と絵」展示の趣旨

- (1)永青文庫資料を用いて、「物語の出来始めのおや」竹取物語から室町時代の御伽草子類まで、10世紀から17世紀までのおよそ800年にわたる流れをたどる。
- (2)物語の歴史を単に発展や深化の歴史すなわち作者と創造の歴史としてでなく、むしろ読者と享受の歴史として捉える。
- (3)物語の享受に絵が大きな位置を占めていることを具体的な物語テキストを通じて確認するとともに、絵が物語の展開や豊かな言語表現の契機ともなることを示し、これを通じて物語が享受と創造の動的な場に生成するものであることを明らかにする。

2. 永青文庫と物語資料

- (1)この展示に用いた資料は20点、空白の多い物語史となった。永青文庫といえども物語史の全体像を示すだけの資料を用意することはできない。
- (2)それは永青文庫の成り立ちとも関係がある。文庫の起源というべき細川幽斎は手許に多くの和歌資料を置いていたけれども、物語に関しては伊勢物語と源氏物語を除いて、所持あるいは書写した作品は少ない。
- (3)特定の作品のみを重用する姿勢は幽斎だけのものではない。大方の歌人、和学者に共通の態度である。鎌倉時代以降、伊勢物語と源氏物語は歌学を学ぶための本であった。これに大和物語と狭衣物語が加わる。

3. 欠落の多い物語史

- (1)日本文学の歴史の主流は和歌であったから、物語作品は歌集や歌学書ほどには尊重されず、多くが時間の波に呑み込まれ消滅した。文永8（1269）年に作り物語の歌ばかりを集成した風葉和歌集が皇太后藤原娍子の命により編纂され、198種の物語作品から歌が採用されている。
- (2)それから750年、風葉和歌集に用いられた作品のうち現代に伝わるものは22編。そのうち、寝覚物語、浜松中納言物語などでも一部が欠落している。

4. 伝来と散佚の分岐

- (1)読者に支持され読み継がれていく作品と、読まれなくなり、忘れられ消えていく作品とは、どこに違いがあるのか。作品の文学的価値か？
- (2)古典として歌学のための物語として扱われた作品に対しては本文校訂がなされ、注釈が加えられる。伊勢物語、源氏物語など。
- (3)源氏物語は大部の作品であったために、源氏小鏡などの梗概書も作成された。これは源氏物

語の大概を知るとともに、連歌を作るときの言葉の使い方を指南するためのものである。室町時代に連歌は重要な社交の場であり、連歌の席に加わるためには古典に関する素養が必要で、源氏小鏡はその簡便な教科書であった。

- (4)物語は社会に合わせ、時代に合わせて作りかえられることによって、読者の支持を得て読み継がれる道もある。

5. 物語の享受

- (1)物語が歌学と結ぶ以前に物語はどのように読まれてきたのか。源氏物語絵巻「東屋」巻に、姫君が絵を見ながら女房に言葉を読ませて聞くという場面がある。このような読み方が一般的であったとはいえないが、女房や侍臣が物語を音読し、これを高貴な人や幼い者が聞くという鑑賞法は珍しいことではなかった。
- (2)物語が絵と深く結びついていたことは、多くの文献によって知られる。
- (3)大和物語第一四七段の場合。生田川を舞台として、一人の女に二人の男が求愛し、結局三人とも入水して果てる悲劇の物語。この物語を描いた絵を見て、女性たちが詠んだ歌のいくつかは死後の霊魂になりかわったのものであるから、物語の続編を作ったことになる。また、生きていた時の女になって詠んだのは、その場面に豊かな表現を与える、いわば改作であった。
- (4)住吉物語と絵。大斎院前の御集、今昔物語集巻第十九第十七に住吉の姫君の絵の記事が見える。書陵部本大中臣能宣集に、住吉物語の絵に歌を詠み加えたという記事がある。絵を踏まえ、その画面にふさわしく歌を詠む営みは作品の増補であり、改作である。

6. 物語の改作と物語の歴史

- (1)源氏物語の本文は現在残っているテキストが原作本文から大きく損なわれているとまでは言えない。これに対して、物語作品は、後世の読者によって、第二、第三の作者によって書き換えられ、作り替えられてきた。
とりかへばや物語（古本）→今とりかへばや物語、いはや→岩屋の草子（永青文庫本「いはや物語」）、狭衣物語→狭衣の草子
- (2)物語の歴史は、それを選んで読み、書き写し、作り替え、あるいは逆に読まないという読者が作ってきたと言ってよい。

7. 画中詞

- (1)絵巻、絵本における絵と詞（文章）との関係は多様である。絵と詞とが画然と分かれて交互に段落をなす形態（永青文庫本「岩屋」）、絵と詞とが相互に入り込む形態（永青文庫本「四十二のものあそび」）、画中に登場人物の科白や場面の説明が書き込まれるものなど。
- (2)絵と科白のみの絵巻からストーリーを導き出して物語化する場合もある。たとえば「福富の草子」から「福富長者物語」へ。

8. 本のかたち

- (1)絵入り本と非絵入り本。たとえば奈良絵本伊勢物語と伝一条兼良筆伊勢物語（ともに永青文庫）。また、鴉鷲合戦物語（寛永期古活字本）。御伽草子は絵巻・絵本で読まれることが多いけれども、この作品に限ってはそれがないと言われる。女性や年少者の娯楽のためというよりは、仏教・儒学・和学を教授する側面が大きかったからであろう。
- (2)永青文庫蔵のいはや物語（豪華な大型奈良絵巻）と四十二ものあそび（小絵巻）の違い。
- (3)横本は、小絵巻の形態を残そうとする装釘である。

5. 研究員の年間活動

稲葉継陽

各種委員会

人吉城跡調査検討委員、佐敷城跡調査検討委員、陣の内館跡調査検討委員、宇土城跡調査検討委員、高麗門遺跡調査検討委員、熊本市文化財保護委員

論文

- ・「16世紀の社会変動と豊臣政権」（八代市立博物館未来の森ミュージアム図録『八代に秀吉がやって来た』 pp.117-127、2013年10月）
- ・「2013年度歴史学研究会大会報告批判 中世史部会平井報告批判」（『歴史学研究』913、pp.48-50、2013年12月）

学会報告

- ・「問題提起」（永青文庫研究センター主催「シンポジウム 日本近世の領国地域社会」熊本大学文法学部棟、2013年11月30日）
- ・「17世紀における藩政の成立と特質—藩政改革の歴史的前提—」（永青文庫研究センター主催「シンポジウム 日本近世の領国地域社会」熊本大学文法学部棟、2013年12月1日）

講演

- ・「濫妨狼藉から天下泰平へ—山鹿城：城の機能と民衆—」（くまもと県民カレッジ 熊本学Ⅰコース、県民交流会館パレア、2013年7月3日）
- ・「細川幽斎と信長・家康・秀吉」（舞鶴・丹後学講座講演、大阪毎日インテシオ、2013年9月14日）
- ・「細川忠利の政治と生涯」（歴史サロン花畑 くまもとの歴史を彩った人々、熊本市歴史文書資料室、2013年9月24日）
- ・「近世史研究の最前線—永青文庫細川家史料から—」（歴史研究会 第29回全国大会、熊本交通センターホテル、2013年10月18日）
- ・「日本史研究の最前線—永青文庫細川家史料から—」（日本青年会議所 建設部会第47回全国部会員大会、熊本城数寄屋丸、2013年10月19日）
- ・「16世紀の社会変動と豊臣政権」（八代市立博物館 平成25年度秋季特別展覧会「秀吉が八代にやって来た」特別講演会、八代市立博物館講義室、2013年10月27日）
- ・「丹後の戦国時代と一色氏・明智氏・細川氏」（細川忠興公・ガラシャ夫人人生誕450年記念展示「丹後、細川家の事績」文化財講座、京都府立丹後郷土資料館、2013年11月16日）
- ・「中世史を起点に農村社会を考える」（東京大学農業経済学研究室オープンセミナー、東京大学農学部農経会議室、2013年12月17日）

新聞連載

- ・「ポスト戦国世代 細川忠利の国づくり」(『熊本日日新聞』2013年6月7日～8月16日、計10回)

川口恭子

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、公益財団法人永青文庫評議員、一般財団法人松井文庫評議員

監修

- ・『松井文庫所蔵古文書調査報告書』17、八代市立博物館未来の森ミュージアム、2013年

講座

- ・「古文書学講座」熊本城400年と熊本ルネッサンス県民運動本部主催、RKK学苑、月2回
- ・「古文書を読む(初級)」NHK文化センター熊本教室、月2回
- ・「古文書を楽しむ」NHK文化センター熊本教室、月2回

北野 隆

各種委員会

大分市文化財保護審議会、人吉城整備検討委員会、岡城整備検討委員会、宇土城整備検討委員会、勝尾城整備検討委員会、臼杵城整備検討委員会、南関城調査委員会、佐敷城整備検討委員会、杵築城整備委員会、中津城整備委員会、八代妙見祭笠鉾保存委員会、熊本アートポリス推進賞選考委員

講演

- ・「熊本県の文化財について」(熊本県建築士会主催、熊本県建築士会館、2013年9月28日)
- ・「皆で守ろう・活かそう・地域の宝 IN 川尻」(熊本県建築士会主催、川尻公会堂、2013年10月5日)
- ・「細川興文公の建築—焦夢庵と江戸時代の武家屋敷」(社団法人熊本県青年塾、宇土市中央公民館、2013年10月26日)
- ・「よみがえる熊本城」(動的画像処理実利用化ワークショップDIA2014、熊本大学工学部百周年会館、2014年3月6日)

甲元真之

各種委員会

文化庁「発掘調査のてびき」委員会座長、熊本県文化財保護委員会委員、

熊本市文化財保護委員会委員長、東名遺跡重要性評価検討委員会委員長、玉東町・熊本市西南戦争遺跡調査検討委員会委員長

著書・論文等

- ・単著『天倪』シモダ印刷、68p、2013年
- ・共著『貝と骨からわかる縄文人の素顔』佐賀市教育委員会、2013年
- ・「柳田國男とヴィクトリア朝後期の人類学」(『先史学・考古学研究と地域・社会・文化論』、pp.199-215、2013年)
- ・「内蒙古東南部出土の帯名青銅器」(『福岡大学考古論集』2、pp.469-480、2013年)
- ・「跋文」(『永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編』pp.237-238、吉川弘文館、2014年)
- ・単著『木鶏』、シモダ印刷、50p、2014年
- ・Climatic Fluctuations in Pre-Qin China. TAKAHASHI & WENQUAN eds. *Ancient People of the Central Plains in China*. PP.53-61. Kyushu University press, 2014

講演

- ・「貝と骨からわかる縄文人の素顔」(佐賀市教育委員会主催、佐賀県立博物館、2013年10月12日)
- ・「西南戦争がもたらしたもの」(西南戦争遺跡連携協議会主催、熊本市植木町文化センター、2013年10月13日)
- ・「城下町と文化財の活用」(熊本青年会議所主催、熊本市市民会館、2013年12月12日)
- ・「弥生時代の気候変動」(岡山大学埋蔵文化財調査研究センター主催、岡山シティミュージアム、2014年2月8日)

高濱州賀子

各種委員会

熊本県文化財保護審議会委員、熊本市文化財保護委員会委員、大分市美術館収集委員、財団法人松井文庫理事、財団法人島田美術館評議員

論文

- ・「永青文庫所蔵の故実・武芸関係資料」(熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編『永青文庫叢書 細川家文書 故実・武芸編』吉川弘文館、pp.189-235、2014年3月1日)

講演

- ・雁学びの部屋「細川忠利の武芸について」(熊本市南区富合公民館、2014年1月18日)

非常勤講師

熊本大学教育学部非常勤講師(文化財保護)

崇城大学芸術学部非常勤講師（博物館概論・考古学と文化財Ⅱ）

新聞掲載

- ・「書評 熊日出版文化賞受賞 坂口恭平作『幻年時代』」（『熊本日日新聞』2014年2月23日）

徳岡 涼

非常勤講師

熊本大学教養教育実施機構非常勤講師、熊本県立大学文学部非常勤講師
熊本市医師会看護学校非常勤講師（文学）、人間文化研究機構国文学研究資料館平成25年度共同研究員・日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉

論文など

- ・「手習」巻の浮舟歌について―「袖ふれし人」とは誰か―（『国語国文学研究 森正人教授退職記念特輯号』第49号、熊本大学国語国文学会、pp.85-99、2014年3月）
- ・「書評 森正人著『場の物語論』」（『国語国文学研究 森正人教授退職記念特輯号』第49号、熊本大学国語国文学会、pp.376-380、2014年3月）

発表

- ・国文学研究資料館 基幹研究研究会・日本文学における〈中央〉と〈地方〉「細川幽斎と飛鳥井家」（国文学研究資料館、2013年6月7日）

講座

- ・「平安文学～源氏物語を読む」（熊本公徳会カルチャーセンター、びぶれす熊日会館、月2回）
- ・「古今和歌集を読む」（熊本公徳会カルチャーセンター、びぶれす熊日会館、月2回）

森 正人

各種委員会

人間文化研究機構教育研究評議員、人間文化研究機構総合研究推進委員会委員、国文学研究資料館調査収集委員会委員

著書

- ・単著『古代説話集の生成』笠間書院、350p、2014年

論文

- ・「馬の頸を抱く子供たち―債負転生譚から恩愛転生譚へ―」（『文学』[隔月刊] 第15巻第1号、pp.63-76、2014年1月）
- ・「転生譚をめぐる事実と虚構―浜松中納言物語・豊饒の海における夢と記憶―」（『文学部論叢』第105号、pp.151-161、2014年3月）
- ・「熊本時習館蔵書目録考」（『かがみ』第44号、pp.18-38、2014年3月）
- ・「古代心性表現論序説」（『国語国文学研究』第49号、pp.20-36、2014年3月）

その他

- ・共著「村上春樹における日本の文学伝統の享受と創作に関する研究」（『平成24年度 社会文化科学研究科学際的共同研究の拡充・推進プロジェクト 報告書』熊本大学大学院社会文化科学研究科、2013年7月）
- ・共著『永青文庫資料にたどる物語史と絵 解説目録』（熊本大学附属図書館・文学部附属永青文庫研究センター、2013年10月）
- ・「河原の院に融の心を汲む」（『新春わかかさ能』2014年1月）

講演

- ・「物語史と絵」（第29回熊本大学附属図書館貴重資料展 公開講演会・第8回永青文庫セミナー、放送大学熊本学習センター大会議室、2013年11月2日）

吉村豊雄

各種委員会

熊本県文化振興審議会委員、熊本市町界町名審議会委員、八代市博物館協議会委員、「通潤用水と白糸台地の棚田景観」保存活用委員会委員、宇土市遺跡保存活用委員会委員、宇土市歴史資料保存活用委員会委員、馬場楠井出鼻ぐり調査検討委員会委員

著書

- ・単著『日本近世の行政と地域社会』校倉書房、540p、2013年10月
- ・単著『棚田の歴史』農文協、214p、2014年2月

論文

- ・「藩政改革」（『週刊 新発見！日本の歴史』7号、朝日新聞出版、2013年8月）

講演

- ・「加藤清正の肥後統治―最新の研究成果から―」（熊本県民カレッジ、県民交流館パレア、2013年5月24日）
- ・「奮闘する宇土藩」（宇土歴史談話会記念講演、宇土市中央公民館、2013年5月25日）

- ・「知られざる熊本藩の『文書革命』と地域社会」(第43回九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会講演、熊本県立美術館、2013年11月21日)
- ・「熊本藩宝暦改革の歴史的位相—近代文書行政への転回点としての宝暦改革—」(永青文庫研究センター主催「シンポジウム 日本近世の領国地域社会」熊本大学文法棟、2013年11月30日・12月1日)
- ・「近世阿蘇の農業をめぐる広域連携」(熊本大学拠点形成研究「『永青文庫』資料等の体系的分析に基づく日本型社会研究」主催「公開講演会 阿蘇の祭祀・農業・水環境—古代から現代までの歩み—」、阿蘇青少年交流の家、2013年12月7・8日)

永青文庫研究センター年報

第5号(平成25年度)

発行日：平成26年3月31日

発行者：熊本大学文学部附属
永青文庫研究センター

〒860-8555

熊本市中央区黒髪2-40-1

TEL 096-342-2304

印刷所：シモダ印刷株式会社